

アジア研究教育拠点事業セミナー 2 実施報告書

平成 23 年 11 月 30 日

独立行政法人日本学術振興会 殿

京都大学東南アジア研究所
速水洋子

セミナー 2 実施報告書を次の通り作成しましたので提出します。

整 理 番 号	S-2	
セ ミ ナ ー 名	日本学術振興会アジア研究教育拠点事業「ASEAN におけるグリーンとライフ；東アジアにおける共存と持続可能性」	
開 催 期 間	平成 23 年 10 月 28 日 ～ 平成 23 年 10 月 30 日（3 日間）	
開 催 地	日本 京都市 稲盛財団記念館	
日本側責任者	氏 名	水野 広祐
	所属機関・職名	京都大学東南アジア研究所・教授
開催責任者 （※日本以外の場合）	氏 名 （英文）	
	所属機関・職名 （英文）	
<p>【概要】 韓国東南アジア学会との共催で、多くの東南アジアの研究者の参加を得て、東南アジアにおける共存と持続可能性について 5 つのパネルを通じて議論を行った。すなわち、「ASEAN への東北アジアの視点」「東南アジアにおける社会保障と地域社会によるケア」「気候変動の水資源及び食糧生産への影響、適応、脆弱性」「東アジアにおける移民労働者の交差」「東南アジアへのフローと交流」の各々のパネルにおいて日本、韓国、東南アジアからの参加者の発表があり、今日の東南アジア社会のダイナミズムを韓国や日本からの視点や交流を通じた関係から理解をしようという試みであった。特に、基調講演では、毎年の韓国・ASEAN サミットを組織している Sogang 大学の Shin 教授及び、日本の東南アジア政策に大きな影響力を持つ、政策研究大学院大学の白石隆学長が各々の国と ASEAN とのかかわりを論じ、グリーンとライフの関する東北アジアと東南アジアの関わりについて突っ込んだ議論を行った。</p> <p>【成果】 2 日間で 32 のペーパー発表があり、幅広いテーマに関して大変濃密な議論が展開された。グリーンの問題では、気候変動への脆弱性として、バンコクにおける大規模な洪水について集中的に議論され、タイムリーな議論となった。また、ライフに関しては、社会保障について、在地のケアシステムを家族や地域社会の役割として議論し実証的な多くの研究成果が示された。</p>		

これらは、東南アジアの社会保障制度を、福祉国家の概念から不十分さを強調する従来の議論とは異なり、むしろ相対的に小さな政府の役割における在地の社会保障のあり方をしめすものとして注目された。さらに、香港の移民労働者に関し、近年移民労働者による語り、あるいは積極的な社会運動について多くの議論がなされ、従来の移民労働者の不十分な労働条件や、出身社会に対する影響を中心的に議論して来た研究とは大きく異なる議論がなされた。この問題との関連でも、社会運動における韓流の議論は注目された。

○参加者

① 「参加研究者リスト」に記入されている参加者数 29 人

(「参加研究者リスト」の研究者番号を記入してください。経費負担の別により区別すること。

<A: セミナー経費より負担。B: 共同研究・研究者交流経費より負担。C: 本事業経費からは負担しない。> (形式任意)

- 1-1 京都大学 小泉順子 C
- 1-11 京都大学 石川登 C
- 1-12 京都大学 清水展 C
- 1-14 京都大学 ハウ、キャロライン C
- 1-16 京都大学 速水洋子 C
- 1-21 京都大学 水野広祐 C
- 1-24 政策研究大学院大学 白石隆 A
- 1-27 京都大学 河野泰之 C
- 1-76 日本総研 大泉啓一郎 A
- 1-91 Sogang University Shin Yoon Hwan A
- 1-92 Sogang University Lee Sang Kook A
- 1-109 京都大学 松林公蔵 C
- 1-110 大阪大学 河森正人 A
- 1-111 京都大学 立川康人 C
- 1-112 京都大学 萬和明 C
- 1-113 京都大学 Jafar Suryomenggolo C
- 1-114 早稲田大学 内海愛子 A
- 2-41 Chulalongkorn University Suppakorn Chinvanno A
- 2-42 Chiang Mai University Attachai Jintrawet A
- 2-43 Prachin Buri Rice Research Center Chitnucha Buddhagoon A
- 2-44 People's Empowerment Foundation Pei Palmgren A
- 2-45 Mahidol Universtiy Chalernpol Chamchan A
- 3-39 University of Malaya Kim Hyung Jong A
- 3-40 Institute of Strategic and International Studies Natalie Shobana Ambrose A
- 3-41 Bogor Agricultural University Ekawati Sri Wahyuni A
- 3-42 Paramadina University Dinna Wisnu A
- 3-43 City University of Hong Kong Amy Si0m C
- 3-44 Global South Aya Fabros C
- 3-45 Nanyang Technological University Liew Kai Khiun A

② 「参加者研究者リスト」に記入されていない一般参加者数 23人

○日程及び課題（セミナー関連資料があれば添付すること）
別添のとおり